

公孫樹 (いちよう) 10月号

～学べ 鍛えろ 夢を持って～

「あいさつ」出来ていますか？

ある出来事

何年か前にあった、本当の話です。

小学校3年生の男の子がふざけて蹴った石が、前を歩いていた中学生の男の子の首に当たってしまった。

小学生は、「あ、いけねえ、ごめんな」と言ったのですが、中学生の方は「何だよ、その言い方は！」とアタマにきて、小学生をポカリ。強く殴ったわけではないのに、運悪くそのゲンコツはよけた小学生の鼻をかすったもので、鼻血が出てしまった。

中学生も驚いたが、小学生の方は痛いのと血が出たのとで二重にびっくり。おおげさに声をあげて泣きながら家に飛んで帰っていった。

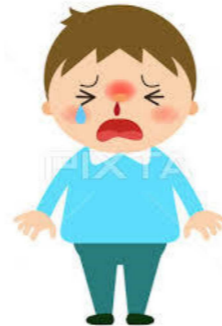
「どうしたの！ どうしたのよ！」と若いお母さんが興奮して言うものだから、小学生も、「中学生に殴られた・・・」と、これだけしか言えない。

それを聞いてお母さんが二度びっくり。

「えっ、なんで殴られたの。誰なの、いったい誰なのよ、えっ！」と矢つぎ早に男の子を攻め立てる。もじもじしている子どもを見て、お母さんは益々エスカレート。

「まったくこの頃の中学生は！」そして、すぐに近くの中学校に電話で苦情。

「小学生の小さい子を鼻血が出るほど殴って、ケガさせた中学生がいるんです。その子を調べて、謝りに来させてください！」



これは実際にあった話です。3人の登場人物、それぞれ別の対応があれば、こんな混乱にはならなかったのではないのでしょうか。「話の行き違い」がいくつかあります。「話の行き違い」というよりは「あいさつの行き違い」と言った方がいいかもしれません。どこに原因があったのか、考えてみましょう。

言葉(あいさつ)の行き違い

まず、小学生が蹴った石が中学生の首に当たってしまったとき、

(小学生)

と、こんな言葉が小学生からスッと出れば、中学生も許してくれていたでしょう。ところが、今度はその中学生が、ポカリとやって運悪く小学生の鼻に当たってしまった。鼻血を出させてしまったので、

(中学生)

と言って、その子を家まで送っていき、お母さんに、

(中学生)

こんな風に言えば、そのお母さんも、

(お母さん)

と、言うことになるでしょう。

お母さんの慌てぶり、早飲み込みも全くの「行き違い」ですね。子どもの声を聞かずに、よく確めもせず中学生を責め、学校に抗議をしてしまったのはいかかでしょうか。

あいさつで人生が変わる



小学生・中学生・お母さんに共通していることは何でしょう。それは、言葉が足りないということです。つまり、きちんとした「あいさつ」ができなかったということです。

「あいさつとは、『対応』ということです。その場、その時に応じて、適切な言葉や態度がとれ、誤解されたりトラブルを起こしたりしないことです。どの人とも、いい関係を持つことが「あいさつ」です。

あいさつは言葉や態度だけではなく、その人の気持ちの問題、心の在り方の問題です。

大人の社会でも、「あいつは、ろくにあいさつも知らない」とか「いい年をして満足にあいさつも出来ない」などと言われることがあります。あいさつは、一朝一夕には身に付きません。まずは、日常のあいさつから始めてみましょう。

あいさつの基本は、「おはようございます。こんにちは。さようなら。ありがとう。ごめんなさい。」です。皆さんは出来ていますか？

朝、正門前で立っていると、「おはようございます」と、しっかりあいさつをしてくれる人は**3分の1**くらいかなと思います。ちょっと寂しいですね。

あいさつで人生が変わった実例があります。

「芸人としての才能がないから辞めさせよう」と、演出家の指摘で、ある青年が浅草の劇場から追い出されそうになった時です。「彼のあいさつは快い。辞めさせないでくれ！」と青年を擁護する声上がり、無事彼は辞めずにすみしました。その人は、後のコメディアンのスーパースター、萩本欽一さんです。修業時代の実話です。

今のキンちゃんがあるのは「あいさつ」のお蔭です。



広報「こだま」最優秀賞！

本校PTA広報誌「こだま」が北埼玉地区広報誌コンクール(出品数67校)にて、最優秀賞を受賞しました。

「こだま」は写真や記事の構成の素晴らしさに加えて、特集記事のテーマ性も評価されました。

本年度は「子どもの安全を考える」がテーマ。通学路で気になる場所、通学時に親が不安に感じていることを取り上げています。自転車ヘルメットが導入された年にピッタリの内容です。親子で考えるよいきっかけとなっています。



生徒用テントを張りました

体育祭で、今年は「生徒用テント」を10張用意しました。

テントは南小・下忍小・下忍公民館様からお借りしました。設営には3年生の他に、佐間天神社の皆様が大勢お手伝いに来ていただきました。おかげさまで、あっという間にたくさんのテントが張れました。誠にありがとうございました。



テントの前で応援～快適でした～

言葉（あいさつ）の行き違い

まず、小学生が蹴った石が中学生の首に当たってしまったとき、

（小学生）あ、ごめんなさい。すみません。ケガしませんでしたか。

と、こんな言葉が小学生からスッと出れば、中学生も許してくれていたでしょう。
ところが、今度はその中学生が、ポカリとやって運悪く小学生の鼻に当たってしまった。鼻血を出させてしまったので、

（中学生）あれ、鼻血が出てしまった。こりゃ、まずいな。よし、止めてやる。ティッシュをこうして、ここを自分で押さえておくと、すぐに止まるよ。

と言って、その子を家まで送っていき、お母さんに、

（中学生）今、この子が学校の帰り道、石を蹴っていてその石がボクの首に当たってしまったんです。この子が「あ、ごめんな」なんて言ったので、ついカッとなってポカッと軽くぶっちゃたんです。この子がよけたものだから鼻に当たって、鼻血を出してしまいました。ティッシュをあてていますが、もう止まっているかもしれません。すみませんでした。ごめんなさい。

こんな風に言えば、そのお母さんも、

（お母さん）あら、こちらこそ、ごめんなさいね。石当たったところ大丈夫？

と言うことになるでしょう。